

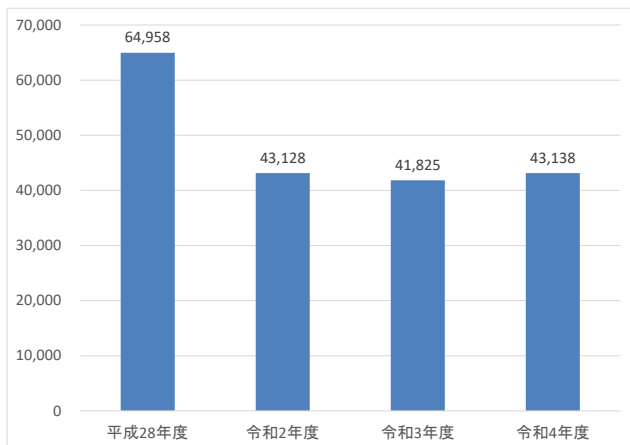
甲州市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

令和4年度結果報告

甲州市

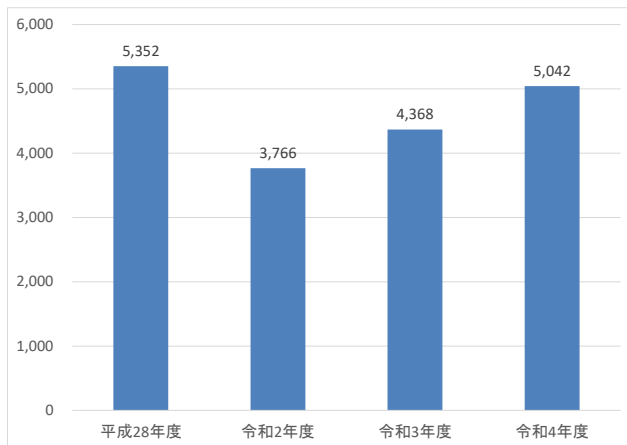
○ 活動種類別の使用量年度ごとの比較（令和4年度報告）

ガソリン（単位：ℓ）



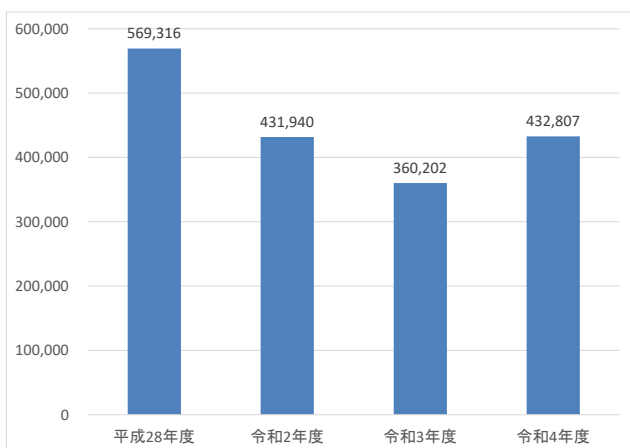
ガソリンの使用量について、令和4年度は43,138ℓ使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して33.6%減少しています。令和3年度の41,825ℓに対して3.1%増加しています。

軽油（単位：ℓ）



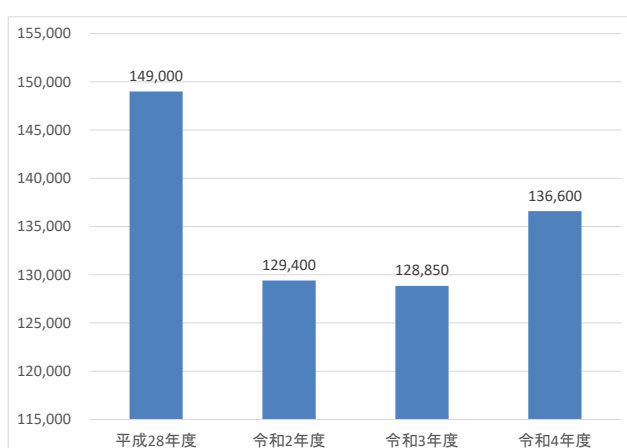
軽油の使用量について、令和4年度は5,042ℓ使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して5.8%減少しています。令和3年度の4,368ℓに対して15.4%増加しています。

灯油の使用量（単位：ℓ）



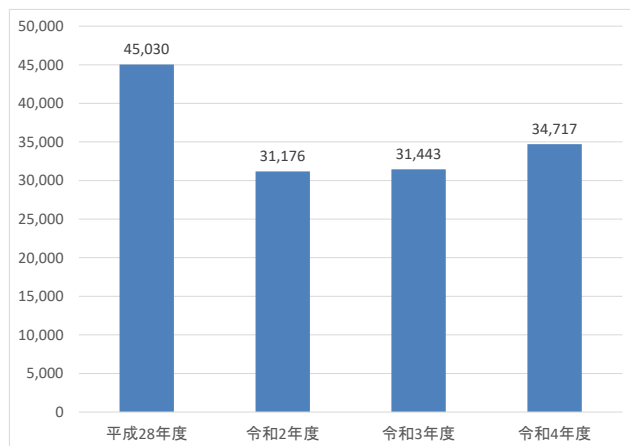
灯油の使用量について、令和4年度は432,807ℓ使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して24.0%減少しています。令和3年度の360,202ℓと比較して20.2%増加しています。

重油の使用量（単位：ℓ）



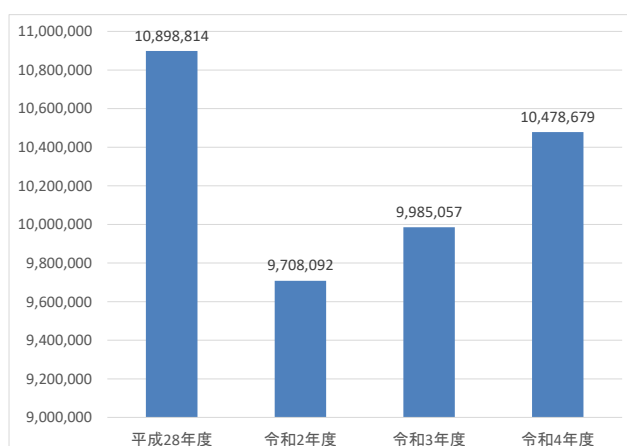
重油の使用量について、令和4年度は136,600ℓ使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して8.3%減少しています。令和3年度の128,850ℓと比較して6.0%増加しています。

LPガスの使用量（単位：m³）



LPガスの使用量について、令和4年度は34,717m³使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して22.9%減少しています。令和3年度の31,443m³と比較して10.4%増加しています。

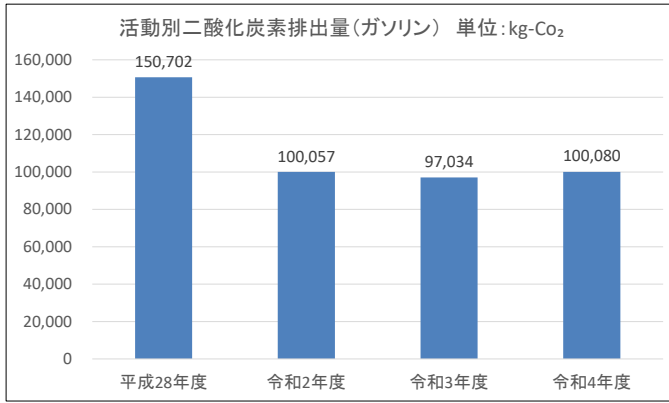
電気の使用量（単位：kwh）



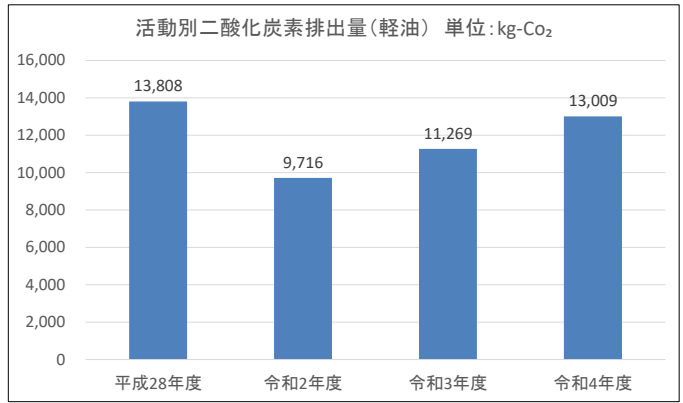
電気の使用量について、令和4年度は10,478,679kwh使用しました。平成28年度（基準年度）と比較して3.9%減少しています。令和3年度の9,985,057kwhと比較して4.9%増加しています。

- 令和4年度の二酸化炭素の排出量は令和3年度より減少しています。電気の使用量が増加した主な要因として、ぶどうの丘の営業がコロナ前の通常営業に戻ったことがあげられます。また、灯油の使用量が増加した要因として、勝沼健康福祉センターの改修工事が終了し稼働が再開したことがあげられます。そのほかの化石燃料においては、一部施設等の活動再開が考えられます。

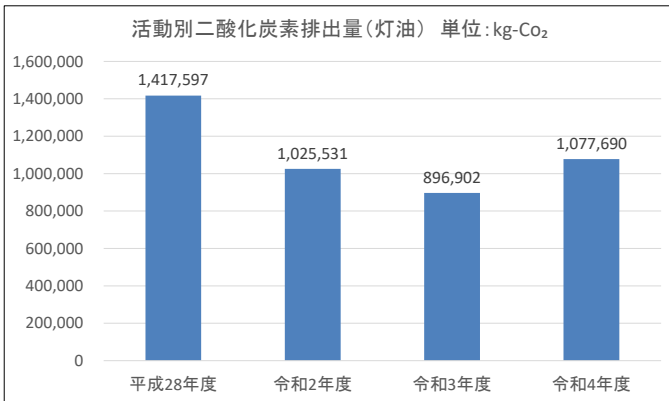
○活動別二酸化炭素排出量(令和4年度報告)



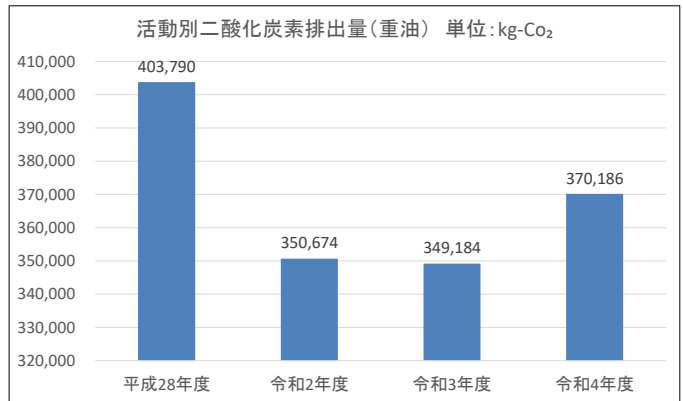
ガソリンの使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度100,080kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して33.6%減少しています。令和3年度の97,034kg-CO₂と比較して3.1%増加しています。



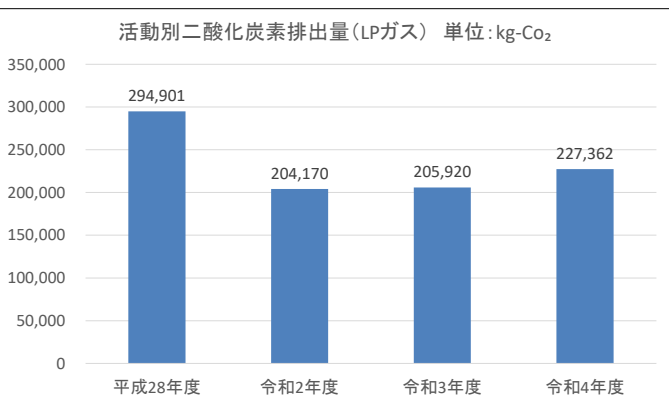
軽油の使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度13,009kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して5.8%減少しています。令和3年度の11,269kg-CO₂と比較して15.4%増加しています。



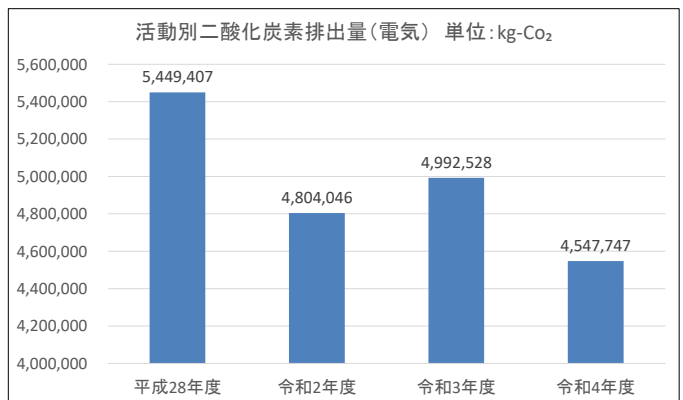
灯油の使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度1,077,690kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して24.0%減少しています。令和3年度の896,902kg-CO₂と比較して20.2%増加しています。



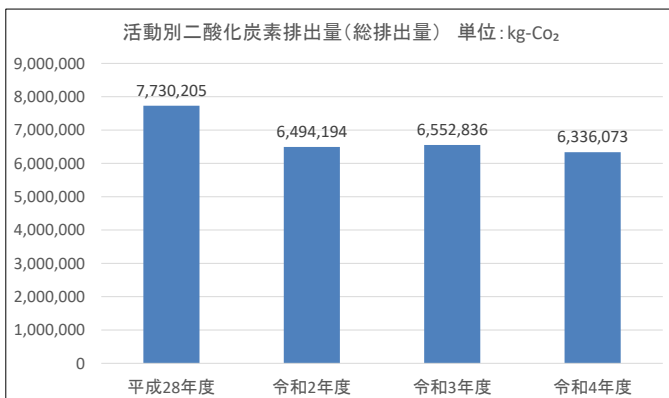
重油の使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度370,186kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して8.3%減少しています。令和3年度の349,184kg-CO₂と比較して6.0%増加しています。



LPガスの使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度227,362kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して22.9%減少しています。令和3年度の205,920kg-CO₂と比較して10.4%増加しています。



電気の使用による二酸化炭素排出量は、令和4年度4,547,747kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して16.5%減少しています。令和3年度の4,992,528kg-CO₂と比較して8.9%減少しています。

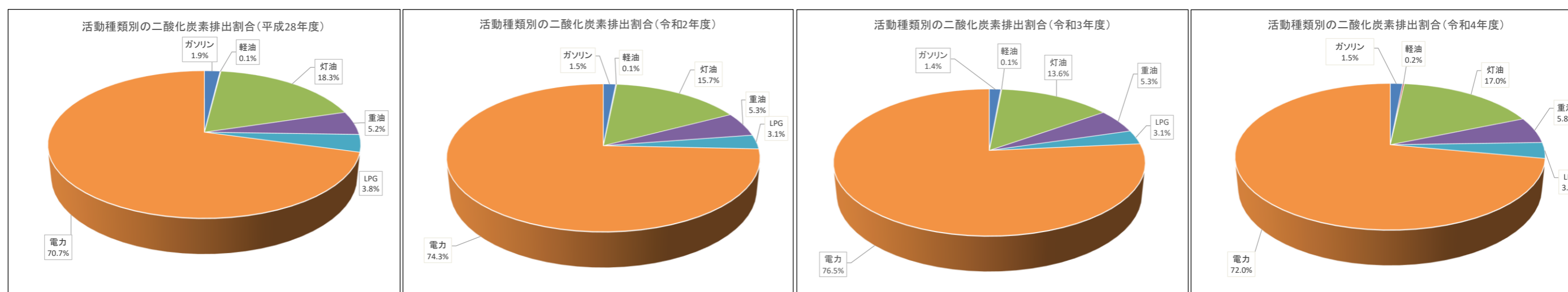


二酸化炭素の排出量について、令和4年度は6,336,073kg-CO₂でした。平成28年度(基準年度)と比較して18.0%減少しています。令和3年度の6,552,836kg-CO₂と比較して3.3%減少しています。

○ 令和4年度は、ぶどうの丘の活動が通常に戻ったことや一部施設等の利用再開により、令和3年度と比較すると電気を除き、二酸化炭素排出量が増加しました。電気は二酸化炭素排出係数の改定により二酸化炭素排出量が減少しました。

活動種類別の二酸化炭素排出割合

| 活動の種類 | | | 平成28年度 | | | 令和2年度 | | | | 令和3年度 | | | | 令和4年度 | | | |
|-------|---------|----------------|------------------------------|------------------------------|---------------|------------------------------|------------------------------|--------|---------------|------------------------------|------------------------------|--------|----------------|------------------------------|------------------------------|--------|--------|
| | | | 活動量 | 二酸化炭素排出量 | 割合 | 活動量 | 二酸化炭素排出量 | 割合 | 対28年度比 | 活動量 | 二酸化炭素排出量 | 割合 | 対28年度比 | 活動量 | 二酸化炭素排出量 | 割合 | 対28年度比 |
| 燃料 | 公用車他 | ガソリン | 64,958 ㍓ | 150,702 kg-CO ₂ | 1.9% | 43,128 ㍓ | 100,057 kg-CO ₂ | 1.5% | -33.6% | 41,825 ㍓ | 97,034 kg-CO ₂ | 1.4% | -35.6% | 43,138 ㍓ | 100,080 kg-CO ₂ | 1.5% | -33.6% |
| | | 軽油 | 5,352 ㍓ | 13,808 kg-CO ₂ | 0.1% | 3,766 ㍓ | 9,716 kg-CO ₂ | 0.1% | -29.6% | 4,368 ㍓ | 11,269 kg-CO ₂ | 0.1% | -18.4% | 5,042 ㍓ | 13,009 kg-CO ₂ | 0.2% | -5.8% |
| | 施設利用・運営 | 灯油 | 569,316 ㍓ | 1,417,597 kg-CO ₂ | 18.3% | 431,940 ㍓ | 1,025,531 kg-CO ₂ | 15.7% | -27.7% | 360,202 ㍓ | 896,902 kg-CO ₂ | 13.6% | -36.7% | 432,807 ㍓ | 1,077,690 kg-CO ₂ | 17.0% | -24.0% |
| | | 重油 | 149,000 ㍓ | 403,790 kg-CO ₂ | 5.2% | 129,400 ㍓ | 350,674 kg-CO ₂ | 5.3% | -13.2% | 128,850 ㍓ | 349,184 kg-CO ₂ | 5.3% | -13.5% | 136,600 ㍓ | 370,186 kg-CO ₂ | 5.8% | -8.3% |
| | | LPG | 45,030 m ³ | 294,901 kg-CO ₂ | 3.8% | 31,176 m ³ | 204,170 kg-CO ₂ | 3.1% | -30.8% | 31,443 m ³ | 205,920 kg-CO ₂ | 3.1% | -30.2% | 34,717 m ³ | 227,362 kg-CO ₂ | 3.5% | -22.9% |
| 電気の使用 | | 10,898,814 kWh | 5,449,407 kg-CO ₂ | 70.7% | 9,708,092 kWh | 4,804,046 kg-CO ₂ | 74.3% | -11.8% | 9,985,057 kWh | 4,992,528 kg-CO ₂ | 76.5% | -8.4% | 10,478,679 kWh | 4,547,747 kg-CO ₂ | 72.0% | -16.5% | |
| 合計 | | | | 7,730,205 kg-CO ₂ | 100.0% | | 6,494,194 kg-CO ₂ | 100.0% | -16.0% | | 6,552,836 kg-CO ₂ | 100.0% | -15.2% | | 6,336,073 kg-CO ₂ | 100.0% | -18.0% |



(1) 温室効果ガス総排出量の算定範囲及び算定方法

本市の事務・事業の範囲における温室効果ガスの排出量の算定は、「温室効果ガスの総排出量算定方法ガイドライン」に準拠して行いました。

(2) 温室効果ガス総排出量及び内訳

本市の事務・事業のうち、二酸化炭素が排出される活動種類別ごとに、活動量と二酸化炭素排出量を求めた結果は、上記の表に示すとおりです。

平成28年度の二酸化炭素総排出量は、7,730t、そのうち電気の使用量からの総排出量の割合が最も高く、70.7%を占め、次いで施設暖房に用いられる灯油からの排出量が18.3%となっています。
令和 2年度の二酸化炭素総排出量は、6,494t、そのうち電気の使用量からの総排出量の割合が最も高く、74.3%を占め、次いで施設暖房に用いられる灯油からの排出量が15.7%となっています。
令和 3年度の二酸化炭素総排出量は、6,553t、そのうち電気の使用量からの総排出量の割合が最も高く、76.5%を占め、次いで施設暖房で用いられる灯油からの排出量が13.6%となっています。
令和 4年度の二酸化炭素総排出量は、6,336t、そのうち電気の使用量からの総排出量の割合が最も高く、72.0%を占め、次いで施設暖房に用いられる灯油からの排出量が17.0%となっています。

※令和4年度の二酸化炭素排出量は令和3年度と比較すると、減少しています。今後は、電気使用量の更なる削減のため太陽光発電設備の導入や、照明器具のLED化を進めていく必要があります。